

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.6	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	73.4	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	86.2	91.4

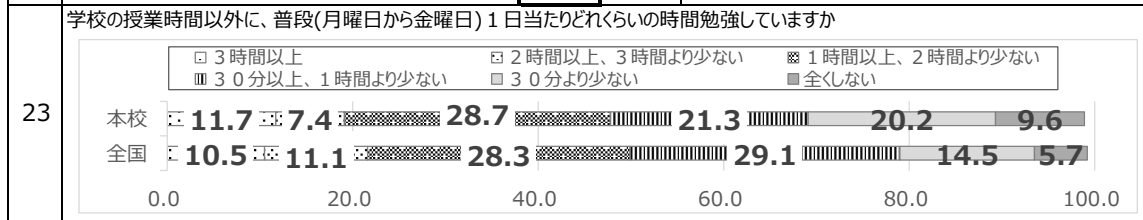
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎学習課題を解決する際に、友達と交流したり、方法を自分なりに工夫しようとする姿勢が見られます。友達の交流を通して、新たな考えや考えを得ることで、学習内容が定着していくことが期待できます。

●家庭での学習時間で、30分以下、全くないという児童の割合が比較的高いようです。宿題以外にも、興味がある学習や苦手にしているところへの学習に取り組めるよう、学校と家庭と連携して取り組んでいけるようにいたしたいと思います。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	85.1	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	72.3	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	85.1	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	78.7	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	82.0	85.7
21	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.8	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎自分のよいところを認め、日常生活の中で幸せを感じることができている様子がうかがえます。

◎学校に行くのは楽しいと思う児童が昨年度と比較して増えてきました。

●地域や社会のために何かをしようという姿勢を育んでいく必要があります。また、人の役に立ちたいという意識をもたせることで、自己肯定感や自己有用感を更に高めていくことが期待できます。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	90.4	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	69.1	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

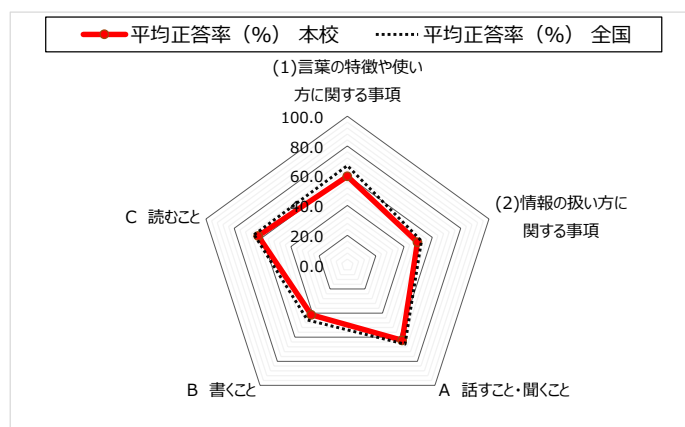
- 児童に出番や役割をもたせることで、学校生活を楽しみ、自己肯定感や自己有用感を高めることを大切にした学級経営を進めていきます。友達同士でお互いを大切に、認め合う土壌を作っていきます。
- 単元に身に付ける資質や能力を明確にし、友達との交流を取り入れた授業を進めることで、主体的・対話的な学習の展開を図ります。また、家庭学習の取組を推進し、自ら学ぶ姿勢を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 「家庭学習がんばろう週間」の取組などを通して、家庭での学習習慣の定着にご協力いただくようお願いします。
- 元気に学校に登校できるよう「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整えていただくようお願いします。
- 地域行事への参加にお声かけいただくようお願いします。地域社会の一員として、地域に関わり、地域をつくることに参加する姿勢が育まれていきます。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	59.6	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	49.5	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	62.6	65.8
	B 書くこと	41.4	45.7
	C 読むこと	63.1	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	59.9	61.9
短答式	51.0	62.6
記述式	46.5	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 資料を活用して自分の考えを工夫することを考える設問では、全国平均値に近い結果になっています。また、目的に応じた必要な情報を見付ける設問では、全国平均値より高い結果となりました。工夫したり、必要な情報をするには強みがあると考えられます。

● 漢字の書き取りや条件に合わせて作文することの設問では、全国平均値よりやや低い結果となりました。また、無回答率も他の設問と比べて高めになっていました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 二 (2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	62.6	63.2
3 三 (1)	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	59.6	55.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	28.3	45.2
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	66.7	76.4

調査結果を受けて

【学校では】

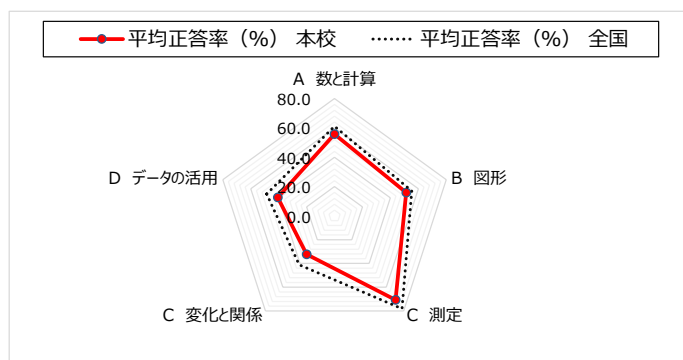
- 目的をもたせて、日常的に「書くこと」の活動を取り入れ、習った漢字を使わせるなど、書くことへの取組を一層進めていきます。また、振り返りなどを通して、自分の学び方や変容を捉え、次の学習につなげられるようにします。
- 国語科だけでなくとどまらず、教科横断的に授業づくりに取り組みます。特に、自分の考えや思いを伝え合う活動や、教材文・資料等をじっくり読むことの活動を大切に、授業を行っていきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習で漢字の書き取りをする際には、機械的に書き取るにとどまらず、具体的な事物と結び付けるなどの簡単な対話（これは〇〇のときに使う漢字だね、等）をはさむことで、言葉と事物とが結び付き、より身に付くようになると思います。
- 読書に触れる機会を増やしていただければと思います。様々なジャンルの読書に挑戦し、言葉や文章に触れることで、自分の考えをもつことの素地を養うことにつながると思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	55.7	61.1
B 図形	51.3	55.3
C 測定	70.7	78.1
C 変化と関係	32.3	41.1
D データの活用	40.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	47.9	56.0
短答式	56.8	59.7
記述式	38.4	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎立方体の体積を求める設問や、十進法位取り記数法の仕組みを使って条件に合った小数を作る設問では、全国平均値より高い結果となりました。基礎・基本が定着している様子が見られます。

●割合を求める設問や条件に合わせた表の読み取りが、全国平均値よりやや低い結果となりました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	81.8	72.7
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	98.0	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (2)	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる	48.5	53.1
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	15.2	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 計算や測定などの学習を丁寧に取り組ませ、基礎・基本の確実な定着を図ります。
- 自分の考えを友達に伝えるなどの交流活動を取り入れ、対話的な学習を進めていきます。問題を解いた喜びや、友達と交流する楽しさなどを感じ、算数科の学習に、より主体的に取り組んでいく授業づくりに取り組んでいきます。
- 学習進度や学習方法で、自分に合った内容や方法を選ぶ場面を取り入れるなどの工夫をします。

【ご家庭では】

- 量感などの感覚を養うため、距離や重さなどの実体験を積むことを大切にしてほしいと思います。学習したことと生活とが結び付くことで、より理解を深めることが期待できます。
- 学習プリントやテストをご覧になられた際には、称賛や励ましの言葉をかけていただければと思います。また、問題の解き直しなどを自主学習としてより組むことで、より学習内容の定着を図ることができます。